

感謝状贈呈 不法投棄監視員永年勤続

9月29日、福島県産業廃棄物不法投棄監視員永年勤続知事感謝状贈呈式が開催され、船引地区担当不法投棄監視員の坂本謹威知さんに知事感謝状が贈呈されました。

坂本さんは平成22年4月から船引地区監視員を務め、地域の不法投棄を監視し、発見した際には、行政と連携し対処していただいています。



あぶくま洞秋まつり ご当地グルメで食欲の秋を満喫

9月26日、27日、あぶくま洞であぶくま洞秋まつりが開催されました。

2日合わせて約4,000人の来場があり、市内のおすすめグルメに加えて県内各地の商工会からバラエティー豊かなご当地グルメが登場し、食欲の秋を楽しんでいました。ステージイベントでは、あぶくま太鼓紅組や鬼五郎幡五郎太鼓、アマチュアパフォーマンス大会として、ヨサコイやカラオケ、ダンスの披露により会場を盛り上げていました。感染症対策が重視されたイベントで、来場者からは「久しぶりにイベントを楽しめて良かった」などの感想が聞かれました。



赤そば栽培 ネパールとの交流の象徴「赤そば畑」

市は東京オリンピックに向けて、ネパール連邦民主共和国のホストタウンに登録されています。ネパールとの交流の象徴として、グリーンパーク都路に約90アールの赤そばを栽培しました。10月下旬まで可憐な赤い花を咲かせ、多くの方にご覧いただきました。

赤そば畑に設置した募金箱を通じていただいたご支援は、今後の赤そば栽培に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。



スポーツ&カルチャー教室 取り入れるよりも、出せる体に！

10月4日、「免疫力を高めて、ストレスに負けない身体を作ろう」が市総合体育館で開催され、成人男女20人が参加しました。

講師にダイエットインストラクターの湯座聖美さんをお招きし、コロナ自粛で凝り固まった体をほぐしながら、家庭でも毎日続けられる簡単な筋力アップトレーニングについてご指導いただきました。

「ストレスに負けない身体も、免疫も、実は簡単な方法で作れる」という湯座さんのお話に、参加者はメモを取りながら、熱心に耳を傾けていました。



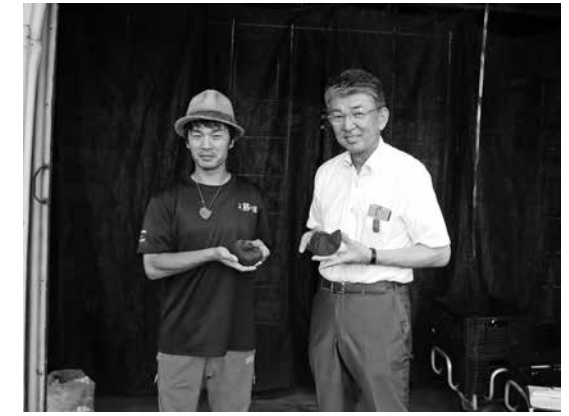
意見交換 市長が若手農業経営者を訪問

9月11日、市長が若手農業経営者を訪問し意見交換を行いました。経営者の皆さんの営農状況を確認し、安心して農業を行うことができるよう、その方法について話し合いました。

市では、意見交換を通して農業の課題を共有し、より良い農業を目指して協力していきます。

今後も若手農業経営者を訪問し随時意見交換を行う予定です。

写真は、きくらげ農家「移ヶ茸」の安田悟さん(船引町)です。



農業学習 小野高校生 田村市のエゴマを学ぶ

9月11日、市内のエゴマ畑で県立小野高校の2年生が農業学習を行いました。

田村市エゴマ振興協議会の根本君江会長からエゴマ栽培の歴史や6次化への取り組みの説明を受け、実際にエゴマの生産状況を確認しました。

生徒たちは、エゴマの実や葉の観察を通して、農業に対する関心を高めていました。



醸造開始 田村市産ホップで地ビール造りを開始

9月30日、グリーンパーク都路内の醸造所で、市産ホップを使ったビールの仕込み式が行われました。

市長と株式会社ホップジャパンの本間誠社長が醸造釜にホップを投入し、ビール造りが始まりました。ホップは、ビールに香りや独特の味を与える植物であり、市内の新たな特産農作物として注目されています。数週間の醸造を経て、市産ホップをふんだんに使用したビールは、田村市の地ビールとして出荷されます。



農医食材連携 農医食材連携カレーができました

10月7日、市役所西口広場でたむらマルシェが開催され、市民病院の指定管理者を務める星総合病院のキッチンカーによる市産野菜カレーの販売が行われました。

市産野菜は若手農家グループアグリクリエイターズたむらのメンバーが丹精込めて育てたものです。

食を通して人々の健康を考える病院側と、市産野菜の知名度向上を目指す農家側の意見が合致して、新たな農医食材連携の契機となりました。

